



1



2

高齢者看護学実習前のVRの効果的な活用

学習目的

救急搬送され、一般病棟に転棟した高齢患者の観察と報告の方法についてシミュレーション学習を通して学ぶ。

学習目標

1. 救急搬送された患者の状態と救命救急処置の実際がわかる。
2. 救急搬送の背景を持つ入院後5日目の患者を受け持つことを想定し、バイタルサインの測定（血圧、脈拍、呼吸数、体温、胸部・腹部音聴診、SpO₂）ができる。
3. 現在の患者の状態を観察し把握できる（アセスメントができる）。
4. 観察した患者の状態についてSBARを用いて報告ができる。

3



4

VRの視聴は実習にどのような影響を与えましたか

知識

・ 実習の受け持ち患者さんの入院時の様子についてイメージがしやすかった
 ・ 今回の実習では視聴場面にあたる体験がなかったため、実習への影響はわからない。
 ・ 繰り返し見られるのなら、実習前のよりリアルなイメージトレーニングになり、ケア実施の練習になりそうとは思った

技術

・ 回復期の患者を受け持ったため、影響はなかったように感じる
 ・ 実習中に活かせるようなことがなかったように思う（受け持った患者さんの状態がVRとは異なったため）

行動

介入による影響を考える、スタッフにも視点を置く
 ・ 人が多いため自分が何をしようとしているのか声を出してからやることの大切さを学んだ
 ・ 回復期の患者を受け持ったため、影響はなかったように感じる

5

あなたはシミュレーション経験をどのように感じましたか

- ・ VR体験自体が初めてだったので、そのリアルさに驚いた
- ・ 自分がその場にいるような緊張感を感じられた
- ・ VR体験は臨場感があり現場の様子をよく理解することができたため、後半の演習もスムーズに理解を深められた
- ・ 実際の患者さんに対して行うような体験ができた
- ・ VRによって普段の実習では見ることのできない受け持つ前の患者さんの状態を想像しやすくなり、実習のシミュレーションになったと思った
- ・ 今まで見たことのない状況を360度で体験でき、新しく知ることがたくさんあった
- ・ 見づらさはあったが、イメージを掴むことはできた
- ・ 救急の場面を見たのは初めてだったので、多くのスタッフがそれぞれに違うことをやっていて緊迫感を感じた
- ・ その場に実際にいるような感じで学べていいと思った

6